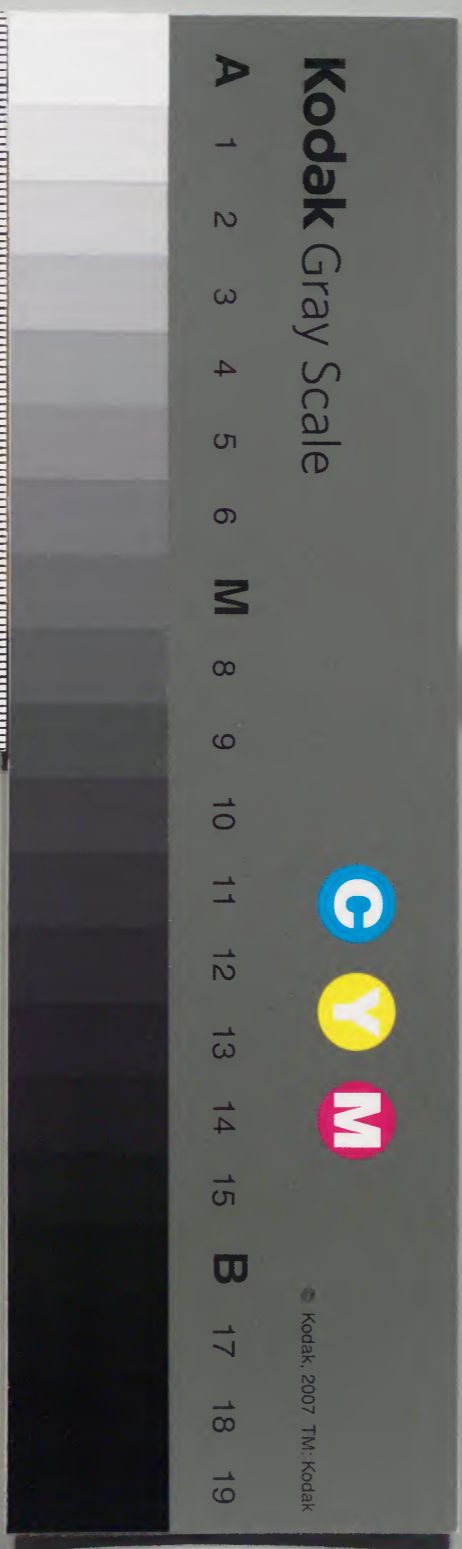


寛永諸家譜

秀郷流
藤原氏丙十冊之内九

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (95)
函號	76 1





佐藤

伊藤

波多野

藤田

小山

大屋

寛永諸家系図傳

藤原氏

丙九

小家

秀郷流

佐友

● 秀郷

千常

法守府将軍

逆四下

淺草文庫

文脩 ぶんしゅう

文行 ぶんぎょう

従五位下

左衛門尉

公光 こうこう

従五位下

相摸守 さうものまもり

公脩 こうしゅう

使左衛門

師清 ししやう

出羽守 てつしのまもり

師文 しぶん

城助 しろすけ

師則 しすね

左衛門

師信 ししん

左衛門の祖

これより左衛門の祖と号す

師治しうぢ

元治げんぢ

信史しんし右司みぎのしやう

继信けいしん

三郎さんらう右兵衛みぎべゑ

史信ししん

左兵衛ひだりべゑ

经信けいしん

左兵衛ひだりべゑ

某なにか

友之郎ともぢらう

某

四郎しやうらう右兵衛みぎべゑ

某

源十郎げんぢゅうらう

某

お守おまもり

某

左兵衛ひだりべゑ大史おほし

某

友二郎

某

四郎若某

某

出羽守

某

左衛門大夫

今按むるに 継信が子と 経信とよみしは
けもびつらなる 決且そのら 叔百年

信則了了らその間く 某や幸く
美名たる事く 中終る志くわこ
いども家傳よりりく 大いし
ささひと傳る意なり

信則

参河守

平國英信

藏田信長よつて 友友山城守 亦後新む良
と形く 濃列の一揆と 法信則を

賢志

揖保城を築くに就て一兵を信別
收度とどの合戦ひがしに首級しゅけいとせられたる
くもくたわら乃ら首法くもくたわらとせ
天正五年八十之辰まで死に 法石
道中みちなか

後五箇下 後河守 生國なまくに同お
天正十二年よりわき長考ながしり名よつてく

使番しばんとれぬ

慶長五年奥列陣おくりゅうじんれとせ

東照大権現とうしょうだいこんげんとて

同年関原陣せきがはらじんとて

乃ら江戸えどとて

柳原式部大輔やなぎはらしきぶだいほ合森あいつもり法中はふちゆう 名命ななつめの

とて

か記かきとつて濃列のうりゅうよつて

を法しほへきとれ

少入あるふりく思これと辨しとて
ゆつれはともしき言聽よま
自余の地と治行られしきわこれ
約命わりのれともしき榮壺と洋儀と
同十七年十二月廿二日六十五歳より
して死と法名宗智

継成

勅右馬尉

生國同前

母と武友弥平若妻の女なり

慶長五年關原陣ののら

大権現より洋福止

大坂陣のとき法寺に詔及の

後とけしし沙田陣のほ二条治城よ

そひく軍功と紀こまよき継成

被授られぬ

大権現よりこれに治慶長初年以後

名遣院殿よりけりてまつり普請

なりとつと女且み文字の差由とく
くき海

寛永九年

將軍家

治つらりて駿府町を以

とれ

同十一年一月之に後列ごりり

六十五歳にに死しと 法名ほふな祖光そくわう

歳次としつぎ

幼童わらわの尉ゑい 生國なまくに同どうの

母はは之の依よ友とも紀き守まもりの女むすめ

寛永十九年

大権現おほごんげん了りやう福ふく一いつととまつり大坂陣おほさかじん

乃の造ぞう年ねんととほほむむととら

名徳院殿なとくゐん了りやう一いつととららりり法華院ほつわゐん

番ばんととつつとと

寛永十一年十一月きやうゑいじゅういちねんじゅういちがつ冒ぼう継成けいせいがが造ぞう次じと

寺海てらうみりり

將軍家ヲ了スクニシテシテ又シテ泚ノ院ノ

蕃ノ心ヲ

信成ノ成ル

外ノ祀ノ生國後河

母ノ幸山院前の心女ノ

寛永元年の心

名徳院殿の心泚ノ院ノ

同二年ノ心ヲ

將軍家ヲ了スクニシテシテ又シテ泚ノ院ノ

同四年ノ心ヲ

將軍家ヲ了スクニシテシテ又シテ泚ノ院ノ

同五年ノ心ヲ 釣命の心 松平の心

伊豆守院の心 細絶の心 泚ノ院ノ 小姓の心 絶ノ 蕃ノ 心ヲ

とは心ヲ

同七年ノ心ヲ の心 泚ノ院ノ 蕃ノ 心ヲ

とは心ヲ

同年 泚ノ院ノ 蕃ノ 心ヲ

同十年ノ心ヲ 叡命の心 の心 大久保ノ 心ヲ

戸三九忠知継と新り涉小姓継乃番
とほむ

名成

松若東尉 生國武苑

母之次成下 母之次成下 成次が養子と

別紙

女子

母之よよむる 保田若若東下若若妻

續成

母之次成下 生國同家 母之内友肥あもる女

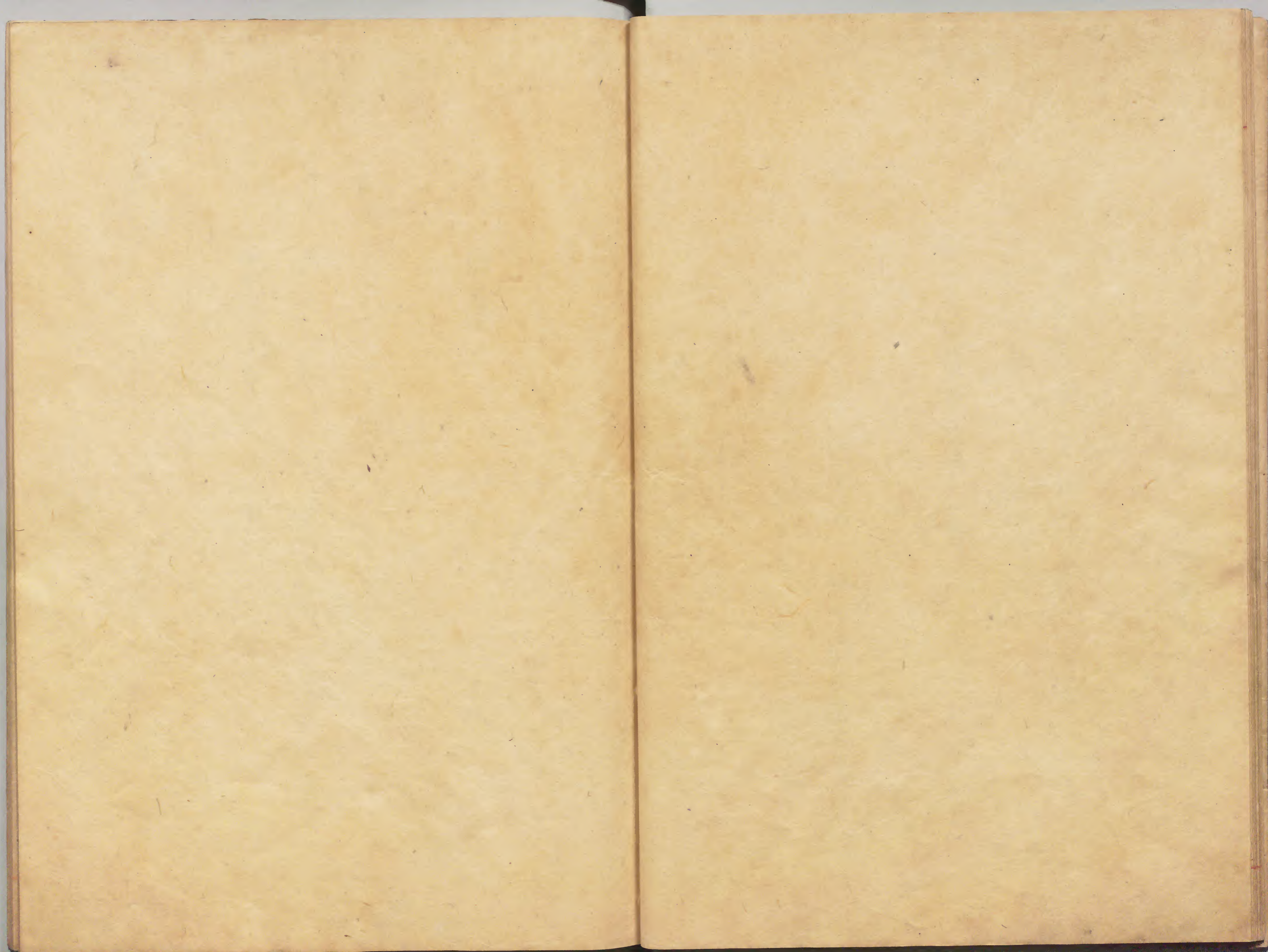
女子

母之次成下 母之次成下 母之次成下

女子

母之續成下 母之續成下 母之續成下

家紋 片輪車 或之傘



● 目次

佐藤

新若東尉

生國下野

法名宗魯

累代園東の沙下

目次

高才助

生國同前

浪人うねりと稱なづりて佐野さのとていひき
天徳てんたくととていひき
去いし下野しものの國石河いしかに居いす
元和四年げんわ六月廿二日じゅうろくにんにじふににち七十七歳しちじゅうしちさいにして
死しす 法名ほふな法心ほふしん

延名のりな

徳后とくごの尉ゑう 生國なまくにの尉ゑう

慶長けいぢやう五年ごねん十一月じゅういちがつ

名徳なとく院いん教けう了りやう 湯ゆ 南みなみの

同年七月ごねんしちがつ長尾ながお宗勝むねかつ沙汰さた延のり成なり乃なり

下野しもの國くに守まもり教けう了りやう 延のり成なり乃なり

少すくく沙馬さばと閑いひ原はら乃なり

延のり成なり乃なり

乃なり

延のり成なり乃なり

同十九年ごねんじゅうきゅうねん大坂おさか沙陣さじん乃なり

翌年ごねん同ご乃なり乃なり

諸士ことくをばさるるに
延吉いふ

名瀬院殿のたたとくをばさるるに

坂邊おぬも木の言をあるとく

湯ふり湯くまらぬと延吉

これをゆららるる凱旋のち

名瀬院殿延吉が取巻とん

伏見れ城くまらぬ

黄金と洋紙とをさるるに

湯前に作し延吉くまらぬ
今も海にやまらぬ黄金を臨湯感
書にひらきとるに
今も今もく家跡をれすに
名瀬院のな来地とく海にこれと記
かご下げのくも延吉小 黄金あり
てその地をえらるるに
相控の國のちらるるに

延重

鴻助 生國氏義

寛永十九年二月

於軍家より了くしつては電小十人組
了けりまわし番をつとむ

家の紋友丸の白くは文字

● 重景 しげが

伊藤 いとう

掃部助 さうぶのすけ

生國 なまくに 之江 のえ

とらぬめ 浅井 あさい 下野 しもとの ちり ちり
武田 たけだ 信虎 のぶとら 了 りょう 了 りょう

重定

下継守

生國回

次虎よとらよりえん信玄しんげん小つこつくく板度いたどより

名な六十むそ年ねん行ゆくく死しと 法名ほふな明孝めいこう

重久

幼丞

生國甲斐

信玄しんげんよりよりびびつつ勝頼かつらよりよりへへととくく

戰場せんぢやうととせせめめらられ

天正てんしやう三年さんねん冬ふゆ列れつ長藤ながふぢよりよりへへととくく

討死うちし年ねん三十二さんじふに 法名ほふな宗英むねひさ

重次

三右衛門尉 生國回

兄あに重久しげひさがが是こゝ迄までよりよりへへととくく勝頼かつらよりよりへへととくく

天正てんしやう七年しちねん駿列しゆんれつ田中たなかのの城しろよりよりへへととくく

けけせせののららちち庭にわををりりつつらら又またとと列れつ前まへれ

おおととくくののつつららびびつつ首級くびきととりりすす

同十年甲列落居のりら

東照大権現了くわい 祈禱いのり 了しる 了しる 了しる

同年小條氏並甲列了しる 進敷了しる

了しる 了しる

大権現了しる 了しる 了しる 了しる 了しる

軍共了しる 了しる 了しる 了しる 了しる

了しる 了しる 了しる 了しる 了しる

小沼小島武川ホの徳吉小条了しる 了しる

了しる 了しる 了しる 了しる 了しる

了しる 了しる 了しる 了しる 了しる

大権現の度了しる 了しる 了しる 了しる 了しる

同年

大権現新了しる 了しる 了しる 了しる 了しる

了しる 了しる 了しる 了しる 了しる

了しる 了しる 了しる 了しる 了しる

大権現了しる 了しる 了しる 了しる 了しる

了しる 了しる 了しる 了しる 了しる

了しる 了しる 了しる 了しる 了しる

せよと子状とより侍方との二人あり
くろを坂へ入るひびり重次後二人
とららぬされりしりく本館を
くさし海に流

同十二年尾列小牧陣より信直次
志田色より軍兵とよりひまふ
とき重次もせりらり且説人として
妻子と後列よりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり

同十八年小田原陣より信直と

同年関東沖入國のとき武列録取小
とひく番地とよりま旧功ありと
りりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりり

慶長五年岡原陣のとき

大指現の言急よりりりりりりり
名進院殿より居りりりりりりりり
陣より信直と

同十七年死と歳六十三

法名善鑑ぜんかん

重昌

新公左衛門尉

生國同前

慶長十七年

名進院殿了了りょうりょうのまうけ

同十九年元和元年大坂おさか再度乃沙

陣がら了了りょうりょうのまうけ

元和九年

嚴命げんめい乃乃のの甲列こうれつ

了了りょうりょうのまうけ

寛永十年

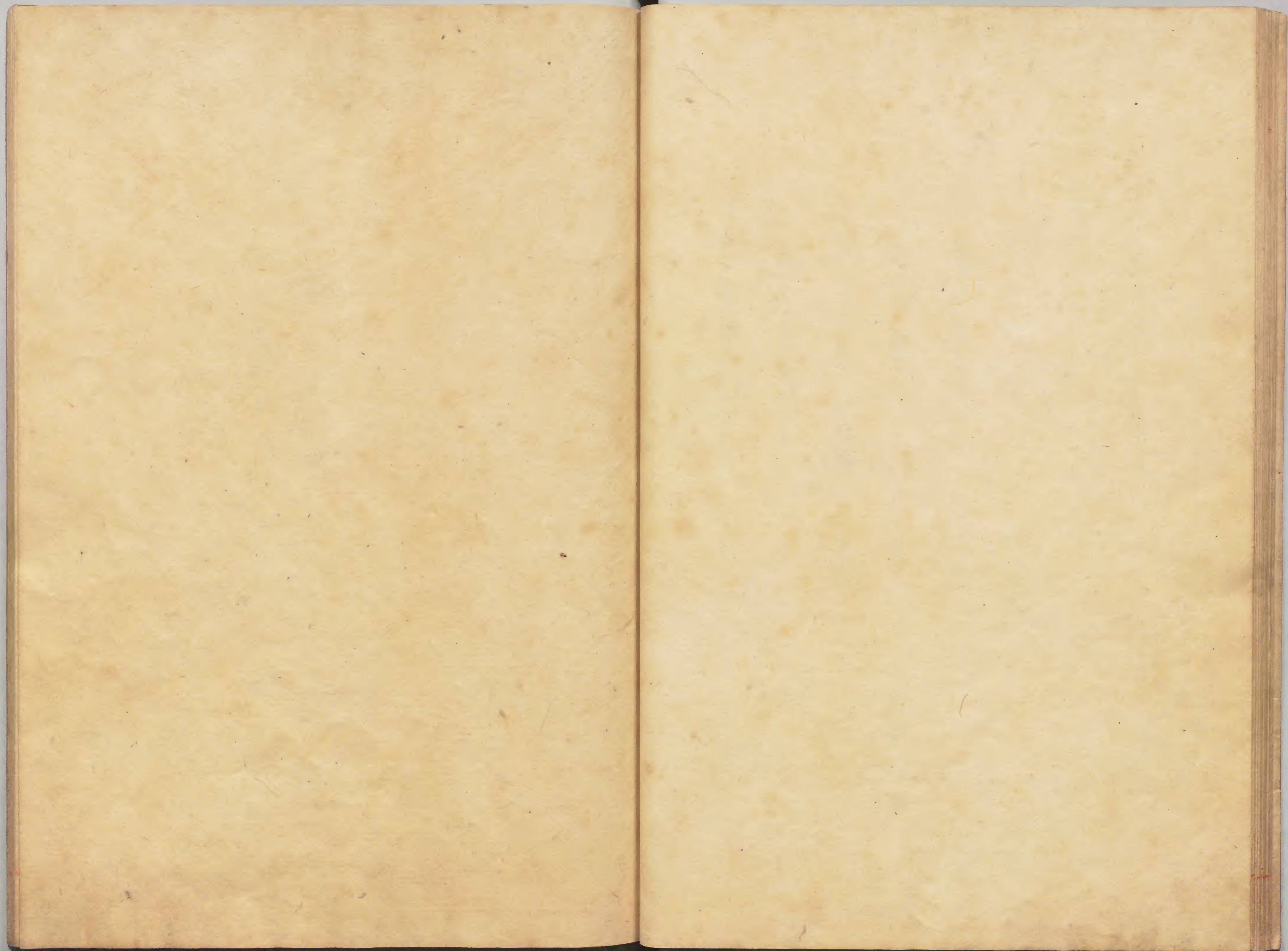
將軍家乃乃沙ののさ持乃乃もちのの

同十七年

乃乃沙ののさ乃乃沙ののさ乃乃沙ののさ

番ばん乃乃沙ののさ

家の飯いりかき上飯かみいりかき



● 景秀 かげひで

大膳 おおいだん

生國巻河 なまくにまきか

名良氏 ならうぢ 了了 りょうりょう 了了 りょうりょう 了了 りょうりょう 了了 りょうりょう
幕の紋 まくのもん 若竹 わかしゅ の丸 のまる と と 三行 さんぎょう く

伊敷 いせき

景持

長吉連の尉 生國同前

冬列しんりつしししししし

東照大権現に拜禮らいらいしししししし

釣糸つゐしししししししし 豊満とよみ之の尉を治を康を直を

しししししし 冬列しんりつよよしししししし 病免びやうめん

春景

長吉連の尉 生國同前

冬列しんりつしししししし

大権現と拜禮らいらいと

丁酉十二年ていゆうじふにねん 長久ながく子こ合あ我がのの尉を甲を吉を直を

首級しゆけいとと得えしししししししししししし 京きやうがが先せん

建立けんたう而を討う死しと

同十九年

名徳院殿なとくゐんしししししししししししししししし

文祿三年ぶんろくさんねん 名命なのみことしししししししししししししししし

治鷹とてしりよりそとてしりし
にさし

元和五年一死と

京後

長尾重時尉 生國本苑

慶長十一年一死とてしりし内苑

若狭をさし

名酒院殿と活礼一太坂あ度乃所

陣小治守とけし心父没一くぬら

名酒院殿れ物命よしりし治鷹求に

しりし津野一不さしこし

寛永十八年よしりし凡女三度

しりし

為軍家一しりししりしをまつら

景久

長尾重時尉 生國本苑

寛永十五年 松平伊豆守伝綱より
將軍家よりお賜す

家の紋 茗荷丸まがしほ

● 正勝まさかつ

信友のりとも

右京左衛門尉

生國信勝いせ

東照大権現とうしょうだいこんげん

正俊まさとし

信友左衛門尉

生國冬河いせ

名瀧院殿
行久

慶長十四年七月六日江戸より

死と七十九歳 法名道安

正重

助茂 其らと名実尉と号と 生國

同前

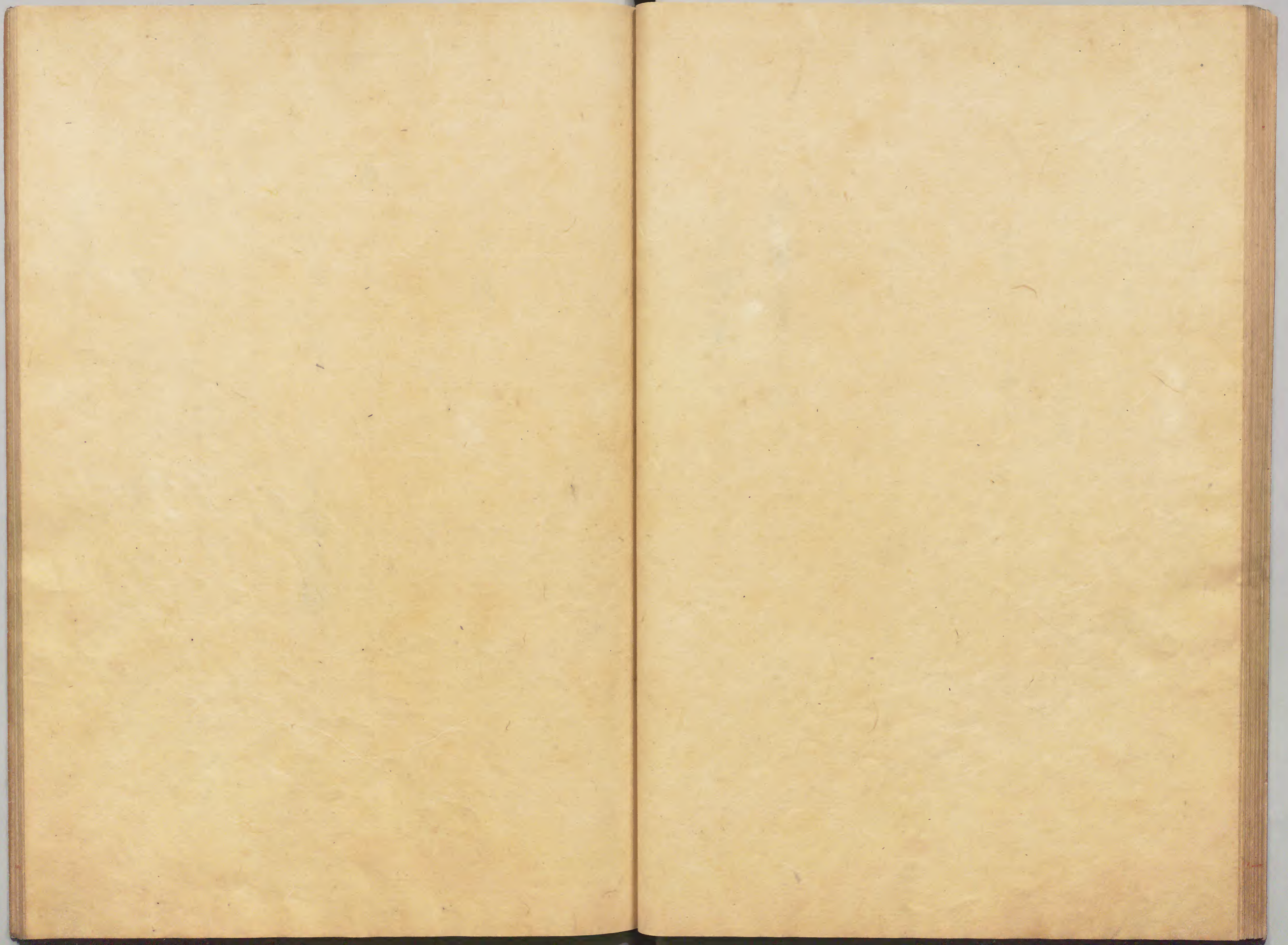
慶長十四年

名瀧院殿
了子

元和二年

將軍家より行久より西つ流

家の紋 木凡



● 某

安芸赤尉

生國伊勢

伊夜

助次

安芸赤尉

生國同前

東照大権現

台徳院殿了りつる

元和八年二月廿九日了り死と

六十九 法名白安

正次

安芸東尉

生國尾張

慶長十六年

台徳院殿了りつる

寛永九年了り

將軍家了りつる

同十六年 涉小納戸 兼 法名

正重

備前守

生國武藏

寛永十一年了り

將軍家了りつる

正種

備前守

生國同前

家紋 龜甲 内 鳩 酸 草

伊波 いば

● 實後 まご

長祢 ながね 補 おぎな

生國 なまくに 伊波 いば

素石 すいし 伊波 いば

七十一 しちじゅういち 年 ねん 行 ゆ 死 し 止 と

法石 はふし 伊波 いば

之 實信 まご

三 さん 之 し 極 ごく

生國 なまくに 伊波 いば

素石 すいし 伊波 いば

物列を搦一揆起りとも織田信長
 の味方とるにむら一揆素名の味を
 相かこいこれより信長三年一
 城とて一揆と追ひてひ敷十人
 と討捕勝利と得る信長感懐
 くを叙とさげく
 そのら豊臣秀吉の命とけり
 丹波の少将一属一物解國
 出陣一む十一案けり一我死と

法名州苑

言心

小戸徳の尉

慶長十九年一月廿日めりれく

名徳院殿一つくくまつら後

將軍家よけくをて何の家

寛永十年武列是之郡よとひく

此地よとま

家紋

鳩こ酸し草こ

波多野

家治いえぢ一い一い一い秀郷ひでさか十代波多野

三郎義通よしみち名胤なむね波多野左衛門尉

其その才さい本もと之の助すけわいわいととよよ将軍しやぐん源

言こと氏うぢ了りやう一い一い城しろ列りやく内うち野の合あひ義ぎのの記き

言こと名な之の得とくららいいれれよよ一い一い言こと氏うぢ

感書かんしよとあ人ひと一い一い言こと氏うぢ以もつ存ぞん中ちゆう終しゆう

有後

小次郎 法名 決道

雲林院 長部大補下下下

有家

雅子助

長部大補下下下

有改

馬右衛門尉

長部大補下下下

有生

幼后連尉

関長門守下下ありくのら 駿河大納言
也下下下 駿列よとひく死して

有綱

五助 信列 中務

名徳院殿

忠長 郷遊

め

為軍家

家の紋

● 正久

鎌田

源房重尉

生國甲斐

武田信玄同務執了了了

天正十年

東照大権現甲列御入國乃之記了了

これより

名瀬院殿了了行々々々々々々々々々

慶長五年十一月六日六十二歳に

死す 法名浄安

正用

忠余の尉 生國同前

正久の書子と行々言は平林を助正廣が

子なり西廣が父平林忠若末光名甲列

う海ら武田勝頼了了了了天正三年

五月廿一日参列 長瀬の戦場よとひく

討死 歳三十三 法名正公 西廣生國同前

大指現甲列 法入國のよきとされくつ

つとめ馳下あて言名一とと

涉慶義とく馬一丈一丈一人と

これよき酒井と九郎浄日行

慶長六年十一月朔日七十三歳

死す 法名林冲

正朔 まごころ

大指規

名徳院殿

將軍家 まごころ

しき

正網 まごころ

友号東尉

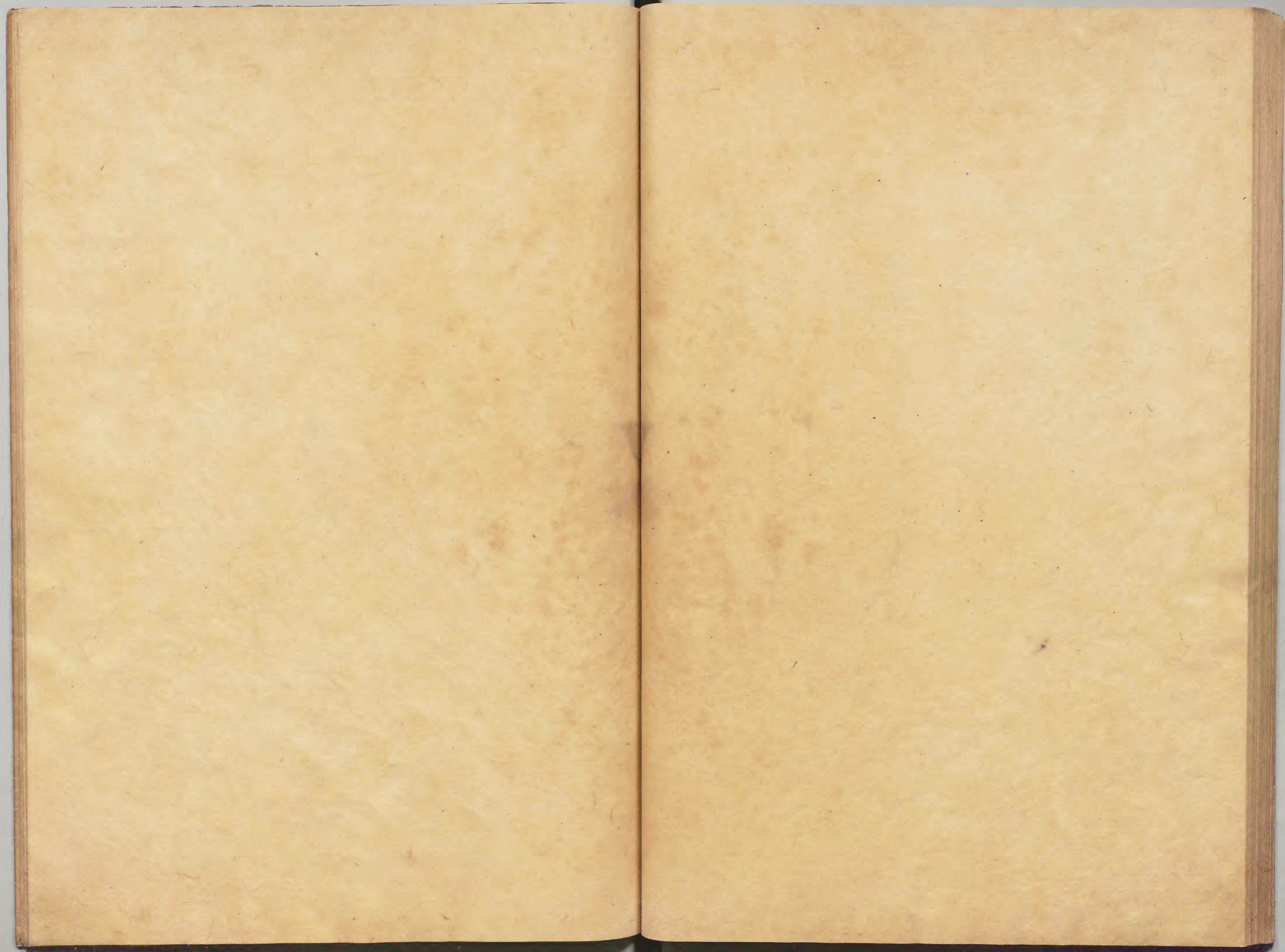
生國武苑 まごころ

寛永四年

將軍家 まごころ

家紋

丸の内松皮菱 まごころ



小山 とやう

● 行定 ゆきさだ

権舟 けんしゅう

生國信濃 いもうの

法名常西 ほうなむね

妻田信玄 つまのぶ 下 した び び 一 いち 務 む 取 と よ よ 了 りょう

行正 ゆきただ

権舟

生國同前

東照大権現甲列新府治出る乃河芦田
右邊の依が御長と相かしく山小屋
了しこちわ河江本了しとひくをせ
めぐりおととけく軍功とけ
ますけゆへり芦田感幸とき
けくうれうへ信列依久郡河江本
了しとひく牧度依地とくあふ
それらめされく

大権現了お福

名徳院殿了了了了了了了了了了了了
慶長五年関原沙陣乃依と
了了

沙

九郎左衛門尉 生國同家
大権現

名徳院殿了了了了了了了了了了了了
西度乃沙陣了了了了了了了了了了了了

新次 しんじ

九段の村

生國上野 うぶくにの

將軍家 しんぐんけ

家の紋 けのゑん 二段の右巴 にだんのみぎのへ

名正

小右衛門尉

生國回前

元和八年十二月十九日六十四歳了して

死す

法名日魯

にらろん

正利

小右衛門

生國相模

まがら

之政

孫右衛門尉

生國茂苑

之次

孫十郎

生國回前

次名

孫右衛門

生國茂苑

家の紋

釘抜くさし

